



第 1 8 号

(毎月 1日 1回発行)

昭和29年 3月 1日発行

昭和28年 4月 17日

第3種郵便物認可

発行所 曙 書 房

定価 一部 20円

近頃発表される「縛しめの場面」の文章はみんなマンネリズムになつて「又か」という感じをうけます。適度のロマンチズム、適度のリアル、そして、生活と性格がしつかり描けた美しい責めの小説……結局、感覚、心理描写、筆力(技巧)、等が、迫真性をもたせる重要な鍵になりそうです、ともあれ女性緊縛の小説はまだまだ開拓される分野を多く残しているのではないでしようか。

九月号の読者通信の中に、私の興味を惹いたものがありました。三十六歳の勤め人だという人の一文です、別にサディストでもマゾでもないというそ

壇 論

私の提唱

真木不二夫

の人が、はじめて奇クを読んだ時、幾分刺激が強いと思ひながらも、雑誌から離れることができなかったという点です。自分がその「責め」に遭遇したら逃げ出さだろうと思ひながらも、そ

の怖しい「責め」に甘美な夢を抱いている人。「それは軽いサドだね」と云つてしまえば、それまでですが、私が云いたいのは、その程度の間人が(特に都会に)いかに多いかということ

です。もつと具体的に云うと、店頭で奇クをバラバラとめくつて、強烈な印象に心を惹かれながらも、繪や読み物の残虐性が濃い為、買うのをためらう人種が案外多いのです。(実は私もその一人でした)つまり私の云

いたのは、その程度の「責め」を好む人達の読みものをもつと載せたら如何、ということなのです。大体に於てインテリが多いのですが、彼らはもつと文学性の高い、心理的に深く抉つた耽美主義の読み物を望んでいます。

責め場ばかりゴテゴテと続く小説は本論壇(十二号)の森田氏の意見のよ

りです。奇クに不健全なワイセツ感がないという読者通信を私は正しいと思ひ、この線をよりよく高度にしてい

た。奇クは、羽村京子さんや、古

川裕子さんのものを否定するわけでは

ありません。男性のマゾも、切腹願望

も、男色ものも、それぞれ奇クにはな

くてはならない読み物だと思ひます。

女性緊縛の美に陶酔することは、人

生に適宜な刺激を与え、(丁度、サシ

ミにワサビを添えるように)限りある

人生を豊富にするものではないでしよ

うか、私はこの意味で、奇クをして徒

らに狂える倒錯性の連発に随すること

無く、大衆性のある、しみじみ味い得

る興行のある雑誌に育て、益々読者の

心の糧とも、潤滑油ともなつて、倒錯

性の真の在り方を明示し、指導するも

のにして戴き度いと、編集部に御願

するものです。

美しき縛しめ (第二集) 批評

岡田良夫

第一集に比較して、質量共に素晴らしい出来でしたが只、説明がなかったのは、画龍点睛を欠くものではなかったでしょうか。一集のような丁寧なものでなくとも、せめてそのポーズをとらせるまでの状況などが欲しかったですね。又、各写真にモデル嬢の名前が紹介されてなかったのも残念でした。今後この種のもを作製される時は是非モデル嬢の氏名を入れて下さい。

(一) 蠟涙 先ず本集の最高の出来の一つでしょう。二月号の「人間燭台」を思い出して、興味深く眺めています。強いて註文をつけるなら、あの作品のように後手で柱を抱かせ、更に足首をも縛り上げて、他の女にその足首を押しさえさせればよかつたと思いますね。又、一寸無理でしょうが股間にもう一本蠟燭が立っていたら……、でも之は余り虫のよすぎる註文でしょう。

(二) 量感 縄のかけ方、撮影の角度共に申分ありません。よくまあ之だけ大胆なポーズをとつてもらつたものだと感心しています。

(三) (手枷足枷 一寸無理なポーズでした。もう少し左前方から撮つたらどうだつたでしょう。

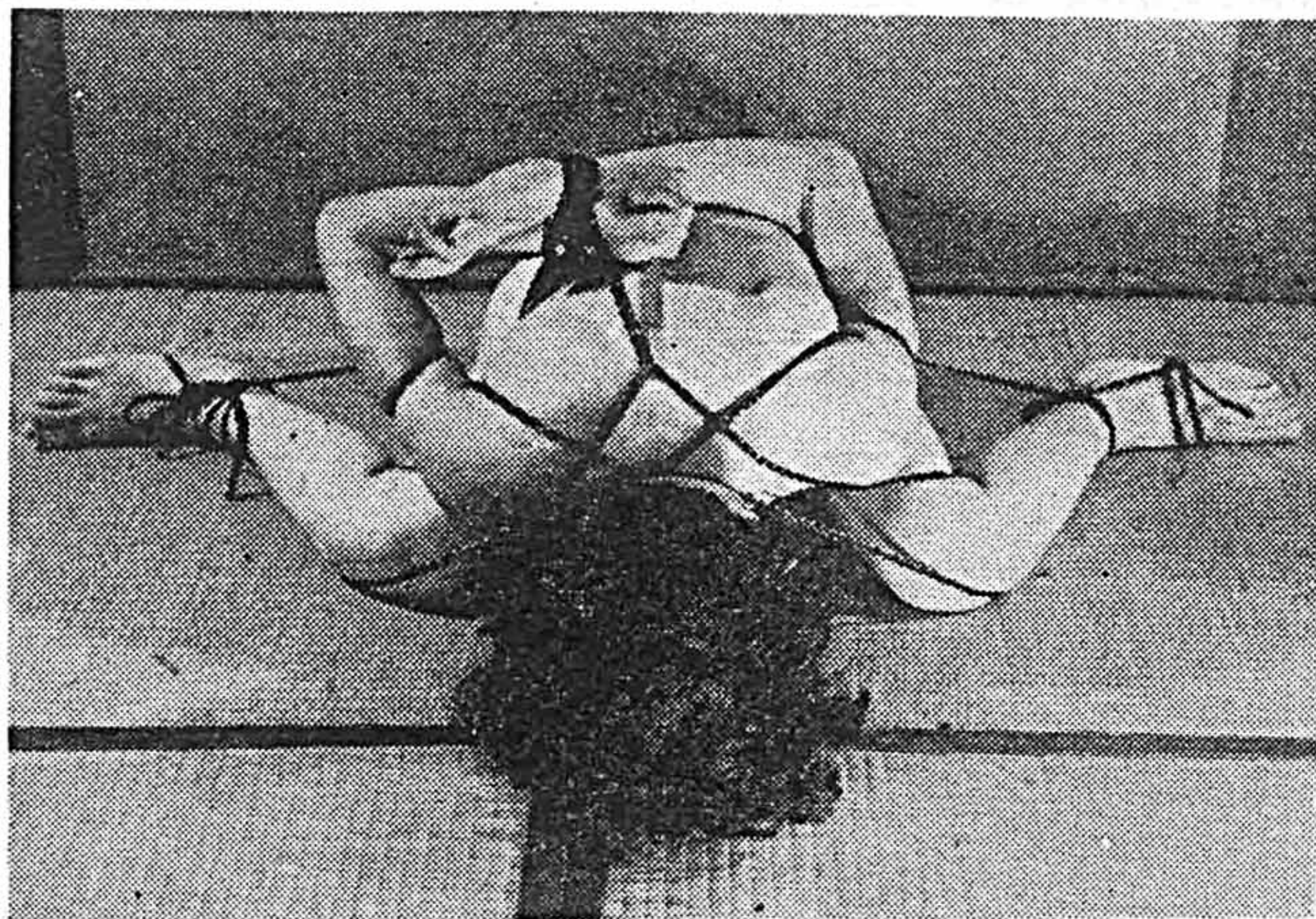
(四) ナイロン 着衣には余り興味がありませんが、之なら体の線もくすれていゝようですが、縄をもう少し厳しくかけた方がよかつたと思います。猿ぐつわをナイロンにしてみたら、勿論鼻まで覆う事は出来ないでしょうが……

(五) 蒲團 縄の掛け方はとてもいいのですが、何が為に俯向いているのか又蒲団の上ですから尻は露出させてもよかつたのではないのでしょうか。

(六) 陽を浴びて やわ肌に砂、泥、小石などが喰込んでいるのかと思うと非常に無残な感じですが、縄が少な過ぎた様です。それに左の指先が右手の横から覗いているのは後手にされた手が単に組んでいるだけのようです、厳しく手首を縛り上げればこのようにはならないと思います。

(七) 立木縛り 足はやはり素足の方がよいのではないのでしょうか、更に両足で立木をはさませて縛りつければ更によかつたでしょう。手首については前と同じ感じがします。

カニ責め
アルバム第二集
『美しき縛しめ』
十三番「カニ責め」より





て び 浴 を 陽

(八) 鏡 鏡にうつった胸の辺りからも少しはつきり出ていたらと思つたのは私だけではありますまい。後手の具合、二の腕の縄の喰込具合は上の部です。

(九) 人間灯台 思いつきは奇抜です、縄の掛け方、時に股間にまで縄を掛けてあるのは一分の隙もない出来です、膝の上に更に一本づつ蠟燭を立てたら更によかつたでしょう。

(十) 足枷 手枷足枷よりはよいと思います、出来ればもつと足を開かせそれを正面から写したら……

(十一) 恍惚 女の縛りには残酷さが欲しいものです、私は縛られてうつとりとするような手ぬるい責めは余り好みません、私の趣向から云えばこの作品は余り有難いものではありませんでした。

(十二) 磔 題名から云えばやはり十

字、又は大の字、出来れば逆磔等、そして全裸のものが欲しかつたですね、前者と共に物足りなかつた作品の一つです。

(十三) 蟹責 文字通りの責め方で大変興味があります。この腕、肩のあたりの縄の喰込みもいゝし、それに此の姿を尻の方から見たら、なんとよからぬ想像をしています。

(十四) 前手縛り 縛りは何といつて

も後手ですね、之だけ上手に縛つてあるのですから後手、而も高手小手としたら申分のない緊縛感が出ると思いますか……

(十五) 後手 縄が一寸太過ぎましたが縄の掛け方、特に高々と吊り上げられた後手に興があります、足はすいぶん無理していますが、足首を縛るか、両股を開かせて半吊りにしたらよかつたと思います
(十六) 股間縛り (一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百) (一百一) (一百二) (一百三) (一百四) (一百五) (一百六) (一百七) (一百八) (一百九) (二百) (二百一) (二百二) (二百三) (二百四) (二百五) (二百六) (二百七) (二百八) (二百九) (三百) (三百一) (三百二) (三百三) (三百四) (三百五) (三百六) (三百七) (三百八) (三百九) (四百) (四百一) (四百二) (四百三) (四百四) (四百五) (四百六) (四百七) (四百八) (四百九) (五百) (五百一) (五百二) (五百三) (五百四) (五百五) (五百六) (五百七) (五百八) (五百九) (六百) (六百一) (六百二) (六百三) (六百四) (六百五) (六百六) (六百七) (六百八) (六百九) (七百) (七百一) (七百二) (七百三) (七百四) (七百五) (七百六) (七百七) (七百八) (七百九) (八百) (八百一) (八百二) (八百三) (八百四) (八百五) (八百六) (八百七) (八百八) (八百九) (九百) (九百一) (九百二) (九百三) (九百四) (九百五) (九百六) (九百七) (九百八) (九百九) (一千) (一千一) (一千二) (一千三) (一千四) (一千五) (一千六) (一千七) (一千八) (一千九) (二千) (二千一) (二千二) (二千三) (二千四) (二千五) (二千六) (二千七) (二千八) (二千九) (三千) (三千一) (三千二) (三千三) (三千四) (三千五) (三千六) (三千七) (三千八) (三千九) (四千) (四千一) (四千二) (四千三) (四千四) (四千五) (四千六) (四千七) (四千八) (四千九) (五千) (五千一) (五千二) (五千三) (五千四) (五千五) (五千六) (五千七) (五千八) (五千九) (六千) (六千一) (六千二) (六千三) (六千四) (六千五) (六千六) (六千七) (六千八) (六千九) (七千) (七千一) (七千二) (七千三) (七千四) (七千五) (七千六) (七千七) (七千八) (七千九) (八千) (八千一) (八千二) (八千三) (八千四) (八千五) (八千六) (八千七) (八千八) (八千九) (九千) (九千一) (九千二) (九千三) (九千四) (九千五) (九千六) (九千七) (九千八) (九千九) (一万) (一万一) (一万二) (一万三) (一万四) (一万五) (一万六) (一万七) (一万八) (一万九) (二万) (二万一) (二万二) (二万三) (二万四) (二万五) (二万六) (二万七) (二万八) (二万九) (三万) (三万一) (三万二) (三万三) (三万四) (三万五) (三万六) (三万七) (三万八) (三万九) (四万) (四万一) (四万二) (四万三) (四万四) (四万五) (四万六) (四万七) (四万八) (四万九) (五万) (五万一) (五万二) (五万三) (五万四) (五万五) (五万六) (五万七) (五万八) (五万九) (六万) (六万一) (六万二) (六万三) (六万四) (六万五) (六万六) (六万七) (六万八) (六万九) (七万) (七万一) (七万二) (七万三) (七万四) (七万五) (七万六) (七万七) (七万八) (七万九) (八万) (八万一) (八万二) (八万三) (八万四) (八万五) (八万六) (八万七) (八万八) (八万九) (九万) (九万一) (九万二) (九万三) (九万四) (九万五) (九万六) (九万七) (九万八) (九万九) (十万) (十万一) (十万二) (十万三) (十万四) (十万五) (十万六) (十万七) (十万八) (十万九) (十一万) (十一万一) (十一万二) (十一万三) (十一万四) (十一万五) (十一万六) (十一万七) (十一万八) (十一万九) (十二万) (十二万一) (十二万二) (十二万三) (十二万四) (十二万五) (十二万六) (十二万七) (十二万八) (十二万九) (十三万) (十三万一) (十三万二) (十三万三) (十三万四) (十三万五) (十三万六) (十三万七) (十三万八) (十三万九) (十四万) (十四万一) (十四万二) (十四万三) (十四万四) (十四万五) (十四万六) (十四万七) (十四万八) (十四万九) (十五万) (十五万一) (十五万二) (十五万三) (十五万四) (十五万五) (十五万六) (十五万七) (十五万八) (十五万九) (十六万) (十六万一) (十六万二) (十六万三) (十六万四) (十六万五) (十六万六) (十六万七) (十六万八) (十六万九) (十七万) (十七万一) (十七万二) (十七万三) (十七万四) (十七万五) (十七万六) (十七万七) (十七万八) (十七万九) (十八万) (十八万一) (十八万二) (十八万三) (十八万四) (十八万五) (十八万六) (十八万七) (十八万八) (十八万九) (十九万) (十九万一) (十九万二) (十九万三) (十九万四) (十九万五) (十九万六) (十九万七) (十九万八) (十九万九) (二十万) (二十万一) (二十万二) (二十万三) (二十万四) (二十万五) (二十万六) (二十万七) (二十万八) (二十万九) (二十一万) (二十一万一) (二十一万二) (二十一万三) (二十一万四) (二十一万五) (二十一万六) (二十一万七) (二十一万八) (二十一万九) (二十二万) (二十二万一) (二十二万二) (二十二万三) (二十二万四) (二十二万五) (二十二万六) (二十二万七) (二十二万八) (二十二万九) (二十三万) (二十三万一) (二十三万二) (二十三万三) (二十三万四) (二十三万五) (二十三万六) (二十三万七) (二十三万八) (二十三万九) (二十四万) (二十四万一) (二十四万二) (二十四万三) (二十四万四) (二十四万五) (二十四万六) (二十四万七) (二十四万八) (二十四万九) (二十五万) (二十五万一) (二十五万二) (二十五万三) (二十五万四) (二十五万五) (二十五万六) (二十五万七) (二十五万八) (二十五万九) (二十六万) (二十六万一) (二十六万二) (二十六万三) (二十六万四) (二十六万五) (二十六万六) (二十六万七) (二十六万八) (二十六万九) (二十七万) (二十七万一) (二十七万二) (二十七万三) (二十七万四) (二十七万五) (二十七万六) (二十七万七) (二十七万八) (二十七万九) (二十八万) (二十八万一) (二十八万二) (二十八万三) (二十八万四) (二十八万五) (二十八万六) (二十八万七) (二十八万八) (二十八万九) (二十九万) (二十九万一) (二十九万二) (二十九万三) (二十九万四) (二十九万五) (二十九万六) (二十九万七) (二十九万八) (二十九万九) (三十万) (三十万一) (三十万二) (三十万三) (三十万四) (三十万五) (三十万六) (三十万七) (三十万八) (三十万九) (三十一万) (三十一万一) (三十一万二) (三十一万三) (三十一万四) (三十一万五) (三十一万六) (三十一万七) (三十一万八) (三十一万九) (三十二万) (三十二万一) (三十二万二) (三十二万三) (三十二万四) (三十二万五) (三十二万六) (三十二万七) (三十二万八) (三十二万九) (三十三万) (三十三万一) (三十三万二) (三十三万三) (三十三万四) (三十三万五) (三十三万六) (三十三万七) (三十三万八) (三十三万九) (三十四万) (三十四万一) (三十四万二) (三十四万三) (三十四万四) (三十四万五) (三十四万六) (三十四万七) (三十四万八) (三十四万九) (三十五万) (三十五万一) (三十五万二) (三十五万三) (三十五万四) (三十五万五) (三十五万六) (三十五万七) (三十五万八) (三十五万九) (三十六万) (三十六万一) (三十六万二) (三十六万三) (三十六万四) (三十六万五) (三十六万六) (三十六万七) (三十六万八) (三十六万九) (三十七万) (三十七万一) (三十七万二) (三十七万三) (三十七万四) (三十七万五) (三十七万六) (三十七万七) (三十七万八) (三十七万九) (三十八万) (三十八万一) (三十八万二) (三十八万三) (三十八万四) (三十八万五) (三十八万六) (三十八万七) (三十八万八) (三十八万九) (三十九万) (三十九万一) (三十九万二) (三十九万三) (三十九万四) (三十九万五) (三十九万六) (三十九万七) (三十九万八) (三十九万九) (四十万) (四十万一) (四十万二) (四十万三) (四十万四) (四十万五) (四十万六) (四十万七) (四十万八) (四十万九) (四十一万) (四十一万一) (四十一万二) (四十一万三) (四十一万四) (四十一万五) (四十一万六) (四十一万七) (四十一万八) (四十一万九) (四十二万) (四十二万一) (四十二万二) (四十二万三) (四十二万四) (四十二万五) (四十二万六) (四十二万七) (四十二万八) (四十二万九) (四十三万) (四十三万一) (四十三万二) (四十三万三) (四十三万四) (四十三万五) (四十三万六) (四十三万七) (四十三万八) (四十三万九) (四十四万) (四十四万一) (四十四万二) (四十四万三) (四十四万四) (四十四万五) (四十四万六) (四十四万七) (四十四万八) (四十四万九) (四十五万) (四十五万一) (四十五万二) (四十五万三) (四十五万四) (四十五万五) (四十五万六) (四十五万七) (四十五万八) (四十五万九) (四十六万) (四十六万一) (四十六万二) (四十六万三) (四十六万四) (四十六万五) (四十六万六) (四十六万七) (四十六万八) (四十六万九) (四十七万) (四十七万一) (四十七万二) (四十七万三) (四十七万四) (四十七万五) (四十七万六) (四十七万七) (四十七万八) (四十七万九) (四十八万) (四十八万一) (四十八万二) (四十八万三) (四十八万四) (四十八万五) (四十八万六) (四十八万七) (四十八万八) (四十八万九) (四十九万) (四十九万一) (四十九万二) (四十九万三) (四十九万四) (四十九万五) (四十九万六) (四十九万七) (四十九万八) (四十九万九) (五十万) (五十万一) (五十万二) (五十万三) (五十万四) (五十万五) (五十万六) (五十万七) (五十万八) (五十万九) (五十一万) (五十一万一) (五十一万二) (五十一万三) (五十一万四) (五十一万五) (五十一万六) (五十一万七) (五十一万八) (五十一万九) (五十二万) (五十二万一) (五十二万二) (五十二万三) (五十二万四) (五十二万五) (五十二万六) (五十二万七) (五十二万八) (五十二万九) (五十三万) (五十三万一) (五十三万二) (五十三万三) (五十三万四) (五十三万五) (五十三万六) (五十三万七) (五十三万八) (五十三万九) (五十四万) (五十四万一) (五十四万二) (五十四万三) (五十四万四) (五十四万五) (五十四万六) (五十四万七) (五十四万八) (五十四万九) (五十五万) (五十五万一) (五十五万二) (五十五万三) (五十五万四) (五十五万五) (五十五万六) (五十五万七) (五十五万八) (五十五万九) (五十六万) (五十六万一) (五十六万二) (五十六万三) (五十六万四) (五十六万五) (五十六万六) (五十六万七) (五十六万八) (五十六万九) (五十七万) (五十七万一) (五十七万二) (五十七万三) (五十七万四) (五十七万五) (五十七万六) (五十七万七) (五十七万八) (五十七万九) (五十八万) (五十八万一) (五十八万二) (五十八万三) (五十八万四) (五十八万五) (五十八万六) (五十八万七) (五十八万八) (五十八万九) (五十九万) (五十九万一) (五十九万二) (五十九万三) (五十九万四) (五十九万五) (五十九万六) (五十九万七) (五十九万八) (五十九万九) (六十万) (六十万一) (六十万二) (六十万三) (六十万四) (六十万五) (六十万六) (六十万七) (六十万八) (六十万九) (六十一万) (六十一万一) (六十一万二) (六十一万三) (六十一万四) (六十一万五) (六十一万六) (六十一万七) (六十一万八) (六十一万九) (六十二万) (六十二万一) (六十二万二) (六十二万三) (六十二万四) (六十二万五) (六十二万六) (六十二万七) (六十二万八) (六十二万九) (六十三万) (六十三万一) (六十三万二) (六十三万三) (六十三万四) (六十三万五) (六十三万六) (六十三万七) (六十三万八) (六十三万九) (六十四万) (六十四万一) (六十四万二) (六十四万三) (六十四万四) (六十四万五) (六十四万六) (六十四万七) (六十四万八) (六十四万九) (六十五万) (六十五万一) (六十五万二) (六十五万三) (六十五万四) (六十五万五) (六十五万六) (六十五万七) (六十五万八) (六十五万九) (六十六万) (六十六万一) (六十六万二) (六十六万三) (六十六万四) (六十六万五) (六十六万六) (六十六万七) (六十六万八) (六十六万九) (六十七万) (六十七万一) (六十七万二) (六十七万三) (六十七万四) (六十七万五) (六十七万六) (六十七万七) (六十七万八) (六十七万九) (六十八万) (六十八万一) (六十八万二) (六十八万三) (六十八万四) (六十八万五) (六十八万六) (六十八万七) (六十八万八) (六十八万九) (六十九万) (六十九万一) (六十九万二) (六十九万三) (六十九万四) (六十九万五) (六十九万六) (六十九万七) (六十九万八) (六十九万九) (七十万) (七十万一) (七十万二) (七十万三) (七十万四) (七十万五) (七十万六) (七十万七) (七十万八) (七十万九) (七十一万) (七十一万一) (七十一万二) (七十一万三) (七十一万四) (七十一万五) (七十一万六) (七十一万七) (七十一万八) (七十一万九) (七十二万) (七十二万一) (七十二万二) (七十二万三) (七十二万四) (七十二万五) (七十二万六) (七十二万七) (七十二万八) (七十二万九) (七十三万) (七十三万一) (七十三万二) (七十三万三) (七十三万四) (七十三万五) (七十三万六) (七十三万七) (七十三万八) (七十三万九) (七十四万) (七十四万一) (七十四万二) (七十四万三) (七十四万四) (七十四万五) (七十四万六) (七十四万七) (七十四万八) (七十四万九) (七十五万) (七十五万一) (七十五万二) (七十五万三) (七十五万四) (七十五万五) (七十五万六) (七十五万七) (七十五万八) (七十五万九) (七十六万) (七十六万一) (七十六万二) (七十六万三) (七十六万四) (七十六万五) (七十六万六) (七十六万七) (七十六万八) (七十六万九) (七十七万) (七十七万一) (七十七万二) (七十七万三) (七十七万四) (七十七万五) (七十七万六) (七十七万七) (七十七万八) (七十七万九) (七十八万) (七十八万一) (七十八万二) (七十八万三) (七十八万四) (七十八万五) (七十八万六) (七十八万七) (七十八万八) (七十八万九) (七十九万) (七十九万一) (七十九万二) (七十九万三) (七十九万四) (七十九万五) (七十九万六) (七十九万七) (七十九万八) (七十九万九) (八十万) (八十万一) (八十万二) (八十万三) (八十万四) (八十万五) (八十万六) (八十万七) (八十万八) (八十万九) (八十一万) (八十一万一) (八十一万二) (八十一万三) (八十一万四) (八十一万五) (八十一万六) (八十一万七) (八十一万八) (八十一万九) (八十二万) (八十二万一) (八十二万二) (八十二万三) (八十二万四) (八十二万五) (八十二万六) (八十二万七) (八十二万八) (八十二万九) (八十三万) (八十三万一) (八十三万二) (八十三万三) (八十三万四) (八十三万五) (八十三万六) (八十三万七) (八十三万八) (八十三万九) (八十四万) (八十四万一) (八十四万二) (八十四万三) (八十四万四) (八十四万五) (八十四万六) (八十四万七) (八十四万八) (八十四万九) (八十五万) (八十五万一) (八十五万二) (八十五万三) (八十五万四) (八十五万五) (八十五万六) (八十五万七) (八十五万八) (八十五万九) (八十六万) (八十六万一) (八十六万二) (八十六万三) (八十六万四) (八十六万五) (八十六万六) (八十六万七) (八十六万八) (八十六万九) (八十七万) (八十七万一) (八十七万二) (八十七万三) (八十七万四) (八十七万五) (八十七万六) (八十七万七) (八十七万八) (八十七万九) (八十八万) (八十八万一) (八十八万二) (八十八万三) (八十八万四) (八十八万五) (八十八万六) (八十八万七) (八十八万八) (八十八万九) (八十九万) (八十九万一) (八十九万二) (八十九万三) (八十九万四) (八十九万五) (八十九万六) (八十九万七) (八十九万八) (八十九万九) (九十万) (九十万一) (九十万二) (九十万三) (九十万四) (九十万五) (九十万六) (九十万七) (九十万八) (九十万九) (九十一万) (九十一万一) (九十一万二) (九十一万三) (九十一万四) (九十一万五) (九十一万六) (九十一万七) (九十一万八) (九十一万九) (九十二万) (九十二万一) (九十二万二) (九十二万三) (九十二万四) (九十二万五) (九十二万六) (九十二万七) (九十二万八) (九十二万九) (九十三万) (九十三万一) (九十三万二) (九十三万三) (九十三万四) (九十三万五) (九十三万六) (九十三万七) (九十三万八) (九十三万九) (九十四万) (九十四万一) (九十四万二) (九十四万三) (九十四万四) (九十四万五) (九十四万六) (九十四万七) (九十四万八) (九十四万九) (九十五万) (九十五万一) (九十五万二) (九十五万三) (九十五万四) (九十五万五) (九十五万六) (九十五万七) (九十五万八) (九十五万九) (九十六万) (九十六万一) (九十六万二) (九十六万三) (九十六万四) (九十六万五) (九十六万六) (九十六万七) (九十六万八) (九十六万九) (九十七万) (九十七万一) (九十七万二) (九十七万三) (九十七万四) (九十七万五) (九十七万六) (九十七万七) (九十七万八) (九十七万九) (九十八万) (九十八万一) (九十八万二) (九十八万三) (九十八万四) (九十八万五) (九十八万六) (九十八万七) (九十八万八) (九十八万九) (九十九万) (九十九万一) (九十九万二) (九十九万三) (九十九万四) (九十九万五) (九十九万六) (九十九万七) (九十九万八) (九十九万九) (一百万) (一百万一) (一百万二) (一百万三) (一百万四) (一百万五) (一百万六) (一百万七) (一百万八) (一百万九) (一百万一十) (一百万一十一) (一百万一十二) (一百万一十三) (一百万一十四) (一百万一十五) (一百万一十六) (一百万一十七) (一百万一十八) (一百万一十九) (一百万二十) (一百万二十一) (一百万二十二) (一百万二十三) (一百万二十四) (一百万二十五) (一百万二十六) (一百万二十七) (一百万二十八) (一百万二十九) (一百万三十) (一百万三十一) (一百万三十二) (一百万三十三) (一百万三十四) (一百万三十五) (一百万三十六) (一百万三十七) (一百万三十八) (一百万三十九) (一百万四十) (一百万四十一) (一百万四十二) (一百万四十三) (一百万四十四) (一百万四十五) (一百万四十六) (一百万四十七) (一百万四十八) (一百万四十九) (一百万五十) (一百万五十一) (一百万五十二) (一百万五十三) (一百万五十四) (一百万五十五) (一百万五十六) (一百万五十七) (一百万五十八) (一百万五十九) (一百万六十) (一百万六十一) (一百万六十二) (一百万六十三) (一百万六十四) (一百万六十五) (一百万六十六) (一百万六十七) (一百万六十八) (一百万六十九) (一百万七十) (一百万七十一) (一百万七十二) (一百万七十三) (一百万七十四) (一百万七十五) (一百万七十六) (一百万七十七) (一百万七十八) (一百万七十九) (一百万八十) (一百万八十一) (一百万八十二) (一百万八十三) (一百万八十四) (一百万八十五) (一百万八十六) (一百万八十七) (一百万八十八) (一百万八十九) (一百万九十) (一百万九十一) (一百万九十二) (一百万九十三) (一百万九十四) (一百万九十五) (一百万九十六) (一百万九十七) (一百万九十八) (一百万九十九) (一百万一百万)

猿ぐつわもせず、顔も正面、女の最も恥しい、そして柔い部分に縄をかけられながら平然とした此のモデルをもつとく責め上げたい気持ちにかられますもう少し股を開かせ、あの部分への喰込みを見せて頂きたかつたですね。
(十七) 椅子 主題よりも手の縛り方に興味を感じました、一月号のビニールと鎖のように、もう少し鎖の使い方を考えて頂きたかつたですね。
(十八) 逆立 (一) と同じく川端さんだと思いますが、足首を揃えて縛り、もつと締めつけたら(海老責になつて了うかも知れませんが)よいと思いましたが。又、この姿勢でしたら左右の足を反対にしてもらつた方が尻の割れなどがもう少し誇張されたのではないかと思います。
(十九) 引廻し 女を引立てる時はこのような縛り方がいゝでしょう、特に股間に縄を掛けたのは効果があるでしょう、実際に歩せているところが欲しかつたですね。
(二十) たてしほり 縄のかけ方がやゝルーズのような気がします私の好

きなボーズです、左の足も右足と同じようにすれば、股も開き更に立派なものになったろうと思います。

(二十一) 犬ぼえ 題名の由来は判りませんが縛り方は十分ですし、それに股倉を通した縄が厳しく吊り上げているのは本当に素晴らしい感じがします。もう少し後の方から尻の割目を写したり、吊上げた縄を他人にぐいぐいと引張らせたなら……と、又とんでもない想像をしました。

(二十二) 逆エビ 私が女の縛り方について以前から考えていたボーズですアイデアとしても出した事がある位ですから之を見た時の喜びは申上げるまでもありません。一糸も纏わぬ全裸の女がこのような姿にされたら！首を僅に左右に振る以外、身動きさえ出来ぬ無残な縛り方、そして淫らな目は、突出されたある部分に注がれる——考えただけでも胸の中がわくくするようなボーズです。よくまあこの無理なボーズをして頂けたと、このモデル嬢に感謝します。只、二の腕に縄がなかったのは残念ですが、今度写される時には胸及び腕にもう少し厳しく縄をかけて下さい。

(二十三) 吊あげ 三月号の半吊りと共に私は之を逆エビ吊と呼んでいます。責としていく作品ですね。殊に股倉に縄をかけて吊り上げられた女が自分の体重をどんなに重く感ずるかお聞かせ願いたい位です。

(二十四) 味覚 男が女を縛っているところでしたらこの題名がピッタリと来るかも知れませんが……

(二十五) 足吊り もう少し高く吊つたらよかつたと思います。よけいな布も取払つて……後手もなんだか一寸物足りません。

(二十六) 綱渡 (二十三) までの素晴らしさに比し、(二十五) 辺りから数枚一寸低調、綱渡という題名なら何時か沼田さんが書かれた様に、空に張り渡されたロープを跨がせて全裸の女を歩かせたようなものがよかつたのではないでしようか。

(二十七) 双丘 ヌードだけの愛好者なら此の見事な乳房を見て喜ぶでしょうが、私共はやはり乳房の上の緊縛美

を味いたいものです。

(二十八) かねん 縛り方はこの写真集でも優秀の部、たゞ細引又は荒縄で、之だけ縛られていたらと思います。

(二十九) 人魚 横にされたモデルの縄の掛け方だけに興味を感じました。而し之も後手の縛り方が十分でないようです。

(三十) 悦虐 横にされた女の尻が棒で突かれているのは傑作。もつと厳しく責めたらよかつたと思いますが……

(三十一) 美声 乳房の上の縄の喰込みだけに興味がありますが、その他は余り興を感じませんね、美声が聞えるような作品が欲しいですね。

(三十二) 溪間の妖精 尻まで水の中につけたらと思いましたが、更に上半身を水につけ、両足首を両岸の立木にでも縛りつけて置いたら水責のよいのが出来たでしようか……

之だけの写真帖の中に逆さ吊りが一枚もなかつたのは残念でした、逆吊は女の責の極致でもあり、危険も伴いますので無理かも知れませんが、一部発

表もされているのですから是非此の次には発表して下さい、いろいろ失礼を申し上げます。悪しからず。

本誌三月号の

抵触箇所

奇譚クラブ三月号は発売四日目に発禁となり全国の書店から、姿を消してしまいました。例により抵触の容疑箇所を記載して御参考に供したいと思ひます。

一、口繪の中、写真、杉原虹児構成の「股間縛り」一葉

二、口繪の中、繪、数久操画「股間の感覚を刺戟する縛り方」の中、扱帯鎖、の二葉

三、内容の中、岡田咲子作「謎の女と私」の文章の一部

四、真木不二夫作「魔性の姉妹」の同五、亀岡絃七郎作「星は濡れている」六、岸本幸雄、投稿の「我が少年時代の犯罪」の文章の一部

(以上)

①輝代(24才) 職業的ヤセ型で下肢は比重して肥肉付で良、パツチリした大きい目の割に小造りの鼻、口、顔、下がかつた話が先になるが巾着上味は当然、昼間アルバイトに来る程、マジメな女、余り間に合わぬので、つい身の上話を聞いて身よりのない事等から同情から出た話。事務所の応接室で冗談まじりでチークに踊つても其の当時

(21) キツスこそさゝぬが何とも云えぬ本能的体位で応じていた輝代、一月の或る日、ロマンスの打明けが始まつた。そして今、切実な回答が迫つてゐる相手、財界一流人の息子でK学出のスポーツマンである。

表者オツサン、この三人の恋人の内、やはりこの若人の名望に心を決めた。と云うわけ、キツスは知つてゐるが、どの男とも肉体関係はないと云うマヌケたダンサー輝代、物凄く冷え込む冬の七時はすでに闇黒のS公園の廻道、さらに向い風の強い中に車を止めるわけは手渡した一通のラブレター、勿論御座なりの唄文句よろしく問題は

「私は指導権を貴女に渡す」と云う一句である。
「輝ちゃん、これはあんたに体を投出す覚悟の有るなしを云つて来ているのだよ。あるんか？」
「……」うんとうなずく決心のほそが見える。
「決心とカクゴの程度試験だ」と、あとは察する通り靴とストッキ



ボクの責め方

(十)

宝塚二三夫

ングを脱がすと蹠足で車外へほり出して

「車の前を歩け！ 手をうしろに組んで……」

ビュービューと寒風は吹く中を車の前へ出た輝代、ヘッドのサイドライトでうす淡く浮出した姿。紫紺のオーバーの背中に小さく白い十指、砂をかむようにちぢみ乍ら歩く白く細い脚、

(腓の半部と細い足首とキビス……) スロースローで動く車がキシム砂利の音、静かに振り向いた輝代、ライトを受けた顔、唇をかみしめて哀願の眸をキラ／＼として立止る、ボクは全身そく／＼する、のと同時に「まだ……」

とハンドルを切つて彼女の前へ追抜くとアクセル一踏、一ふかしで二三十米突走つてストップ、すぐ追付いて走つてくも来るかと思つてミラーを見るが一面の闇黒で判らず、ドアに手をかけようとしていると静かにヌーツと車の横に來た輝代

「どんな事でも辛抱します、考えて頂戴……」

「まあ入れよ」

「ネ、お願い、こゝで立つてます。手もこうして……」

と振り向いて背中でキツチリ組合わした手首と細い十指を握りしめて……

「返事書いてやるよ、あとは引受けてやる」(この引受が今、今日でも相当なぼくの負担)

「すみません……」と明るい顔が小さいルームライトにもハツキリする。助手台へ入つた彼女、震えている。ボクの頭脳にひらめいたもの、ボクのキツスで凡百のキツスとの違いと印象付けておいてやれ！と。

「震えているネ」と上半身を引寄せ抱しめると、唇端の摺合わせから初めて例の歯車キツスに終るまで、総て小造りの彼女、チュブツ、チュブツと音だけは大きい唇、震いが中々おさまらぬ一息「一息」こゝもカクゴが出来てるのやネ……」と唇下のない脚を奥へ一直線に進む、片手先、布片の上から乍らキユツとつまむ。

「エ、……」と吐息と一緒に答え、漸くそのショックからか、ふるえは止まる。何か悪い事でもしたかのように車

はストップで、その場から逃れるように飛ばして電車通りへ――

「今晚よく考えて置き、あす手はずこさえて置いてやる」

「すみませんでした。すみません」

N交叉点、何度も礼を云つて帰る輝代。翌日ボクの事務所へ知らぬげに御出勤、そしてホールへ出勤前、この手紙を自分で書きかえなさいと渡す。要するにこちらは覚悟が出来ているが、

そちらの責任のあり方をハツキリしてほしい――と云う事、そして話がキマルまでなるべくならからだを守つてみよう、と云つてホールへ行かした。そして翌朝、ハツキリ覚えている、二月一日、それも朝八時前私宅(と云つても市内のボクの私宅でT市の本家ではないが)へ小間使の秋子に伴われてベツドルームに入つて來た。ボクの

「どうしたい？」と云う顔を見たトタン「ワアーツ」と泣き出した。ボクは勿論、散華した肉体のやるせなき御報告と知つた。

「早まつて、バカだなあ……」

パジャマのまゝ新聞を捨て、起き上

りざまオーバーのまゝの輝代の顔にあてゝいる両手を握むと、それから責が始まつたのである。日頃伊達体裁の甚だしいダンサー氏もその日の夕方まで延々とした責にすつかりのぼせてしまひ午後には苦痛疼痛よりも一度開いた肉体のうづきに……スツカリ参つて終つたのである。そして輝代を帰らした夕方より秋子を責め出した話は、今のオーバーとの事に関係がないので後章にゆづつてもかく輝代のその日のオーバーと責に関係した事だけを述べて次に移る。

ボクは輝代の両手を目から離すと後手にねじ上げて、秋子に麻縄を持つて来いと命ずる。

「朝つばらから、勘忍してあげてエナア」

「ゴテ秋……」

「秋ちゃんかまへんの……」

そしてオーバーの上から手首だけ少したくし上げた両手を高手小手、首繩に縛り上げた輝代。スカートの下から足首を掴み出すと、すぐストツキンクを剥ぎ取ること二度、床の前にある食

会友通信



御誌の御発展お慶び申し上げます。
小生は写真愛好者の一人ですが、最近御誌の写真集の内、(九一)「溪流の飛魚」(野外全裸の縛り)(女が女を

責める)(鞭打三態)等御願ひしました所、早速御送付下され厚く御礼申し上げます。その内一番の傑作は、溪流の飛魚、次は、野外全裸の縛り、これは太陽の光線が強すぎて画面全体が白

卓の上に立たずと側により、足の爪先を十指揃えて引寄せて佇立姿は前屈みでこちら向き「どこで」「どうして」「どんな具合」ネチ／＼と質問文で問いたゞす、日頃無口の輝代、ボクの誘導尋問以外仲々ハツキリせぬのが又好都合、どん／＼と責は深味へ進行する卓の上から縁側へ、総ガラス越の中間水族館の魚と同様、怪はひらめに、足の指はメダカ？そして遂に庭前、部屋から見にくいので手洗石の上に両足ひろげてのまたぎ立ち、その頃になつて、冷え込み甚だしいためか「四度した」とか「終いは素裸で」とかくわしい白状をし初めて「どんな事でもしま

すから中に入れて頂戴」と悲鳴をあげはじめ。
「二、三日、道の外でもそうしてよろこんで立っていたじゃあないか？」
「けど、あの時は……」
と泣き声で益々前かがみでこちらからでも背中の中指が見える位に全身を縮み上らせ、両足股開きの恰好がよほどこたえろとみえる。石の上で更に「フト感する事あり。さつき登下ぬがす時の様子と云い、
「チヤンと立つんだ。頭をあげて」
「そうだ、オーバーを着たまゝじゃないか？それとも……云つて見い……」
「……」

「はいてないのやろ」
「……」
「云わんといつまでも立たしておいてそこへ見に行くぞ」
「勘忍、はいてません、汚れたんで」
そこで再び部屋の中に入れてボクの前に立たし、ノーズロースをボクの手でたしかめて「と、それ以後の事はこの項以外の話になるわけであるがそれからの性的な責はこうしたものに発表可能かどうか自信はないが一応書いてみるが、このケースは他に(ネ)立子(タ)節子(U)よし子(レ)華子(F)きみ子、時に(ロ)笑子等、特に昨日、今の話ではニューフェースの

たか子然り、いずれにしてもこれは肉の責一本にして一人を対象として書き抜くにはいさ／＼か不穏当とも思われるのでよく総合して感受されたい。但し云つて置くがあくまで現実の実話であるので庭の中に十字架が高々と立つていたり、木馬責の細工ものが室内に据つていたり、石抱き等と今頃ナンセンスなお沙居が、つたものを使用する事も、又そんな気もない事を云つておくそんなのは江戸川乱歩氏とかありそうでない木々高太郎氏のサンカもので満足されたい。
(未完)

過る感もありますが、美しい出来栄えどした。NO九一も結構でした。鞭打三態、女が女を責める、は共に画面が暗く、余り良い出来と思えなかつたのは残念でした。所でお願ひしたいのは毎号の口繪写真にはとても良いのがありますが、あれを分譲して戴けないものでしょうか、例えば、九月号の村田嬢の口繪、十月号の、二女連縛、十

一月号の溪流に縛られて、十二月号の野外の縛め、等は素晴らしいと思ひます。これらをキヤビネ版で御分譲願えれば大変結構と思ひます。口繪で見るより印画紙に焼付けた方が、ずっと美しい秘蔵ができます。薄利多売も結構ですが、高く共小教精鋭主義で、優秀作品を出されるのも、御誌の発展策と思ひます。右何卒願ひしたく御高配の

程御待ちして居ります。出来れば誌上にて可否を御回答下されば望外の幸です。
(笠井康忠)

○
先日広島市内のある書店で初めて貴誌を拝見しました。その時小生の感じるところを一寸記してみます。先ず写真ですが(「アイデア」)はよいとしてモデル諸嬢のマイム(表情)が、他誌に較べて下手であることです。あの様なサディズムを観点として写してある

のですから、苦痛と快感との一致が表情に表れていなければならない、この点大いに研究の余地ありと認めます。女の切腹、についても同様でアイデアは成功ですが、マイムは〇点、私は(死の美)という観念のもとに、今迄相当数のモデルを指導して来た関係でマイムが人一倍、気になります。どうか今後もつとこの点に力を入れて下さい。尚、切腹に付て私の「アイデア」をお送りします。(広島T・M生)

椅子

責め

二題 その一

椅子を用いた責めとして、手と足を背後で連絡して、伸長位を狙ったものを一つ描いてみました。椅子を用いなければ、中々とれないポーズの一つです。

○

号を重ねるに従い常に尖端を歩む貴誌の編集振りに満腔の敬意を表します。女体美も結構ですが、もつと男性ヌードも登載して頂き度く存じて居ります。特に美少年裸体写真、十六、七才位迄の少年被虐ヌード写真、を是非お願いします。戦後の女性解放に反し、男性はむしろ隠ぺい主義に走り、男性の露出欲願望の昇華方法がありません。私達の中学一、三年時代は全校を挙げて「予科紳予備校」と稱し、毎月全裸体検査、M検、肛門検査等を強制されました。当時はお互に友人の「もの」を窃視し恥しい思いをしましたが、それはそれで窃視慾の昇華方法としては適切なものだつた様です。今後、毎月美少年ヌード写真、繪画登載をお願いしたく、又代理部に少年ヌード被虐写真頒布賜り度く、切にお願い致します。
(神戸、富田生)

○

奇クの「女性の切腹」を毎月大変興味深く拝見した者です。小生の会社の女事務員の中で「女性の切腹」と云つ

た記事ばかりを求めている人達が三人程。居ることが判つて驚きました。この中の二人が貴誌の愛読者らしく、ヒソヒソと語り合い批判しているのを偶然に立聞きしたのです。それに先日省線の中でも女性同志で小さい声で話しかつてゐるのを聞きましたが「キク」と云つていたから貴誌のことでしょう。亀岡さんとか田谷さんとか云つていたので例の八景の亀岡氏の事と思います。小生も興味を持つて耳をそばだてゝ居ましたが「責め」には興味がなく、「女性の切腹」に話しの様子が集中されている様に思われました。水内さんがいゝとか、亀岡さんがいゝとか、繪がどうして少いのかと、毎月其方面の興味を以て貴誌を愛読している小生には話しの内容がよく判りますが、案外世間には、其れに興味を抱いている人否、女性が多いと云うことが判つて一驚した次第です。

十一月号の切腹写真は非常な期待を以て居りましたが、実のところ少し物足りなく感じました。今後一層御研究の上、良い写真を映つて載せますよう

に御願ひ致します。(切腹愛好者)

○
KK通信毎号興味を以て拝読しています。小生画家を志ざしている者ですが、以前より責繪を多少描いては楽しんで居ります。同封の一葉はその中の一つです。「責めのアイデア」の御参考になれば幸甚。猶添景場面及小道具類をあしらうことに依り、職別(例えば女教員、事務員、女中、農婦等)に責場を作つて見ては如何、小生も心掛けて居ますが、仲々完成しそうにない責め方には限りがあるのだから斯様な状景描写に進んで見たらと思います。(或いはそんな案はとづくに済み済みかも知れませんが……)

(会員二七四四生)

○
始めてお便り致します。私は十七才の高校生ですが、ふとした折に奇クを手にして「これこそ私の求めていた境」と思いました。私は少年雑誌等で中学生などが縛られている繪等を見ると、何とも云えない快感に襲われます。松井籟子先生の「私の求めた男」(二

月号)は本当に素晴らしいと思います。どうか竹野を思い切り責めて下さい。身動きも出来ぬように縛しめられながら、やわらかな貴女の手によつて辱められる時、竹野が如何に悶え、如何に恥じるかを想像する時、私の胸は異常に躍るのです。それからフット・セクションには是非少年同志の責めを入れて下さい、御願ひします。

(横浜、T・K生)

○
私は奇ク愛読者の一人ですが、アヌス礼賛者として、常に羽村京子さんの文を愛好して居ります。奇ク愛読者の中には、アヌス礼賛者の方も少なくないと思うのです。それで、今後奇クにアヌスの写真を掲載してもらいたいと思うのです。例えば女性をモデルにして、羽村さんの肛門喫煙、本年十一月号の河真田さんが書いておられる肛門にてローソクを点火する等、今迄に試みられなかった面白い写真に、アヌス礼賛者は熱狂することでしょう。アイデアは別紙に書きますが、私は美しい乙女の肛門に挿入されたローソク

椅子

責め

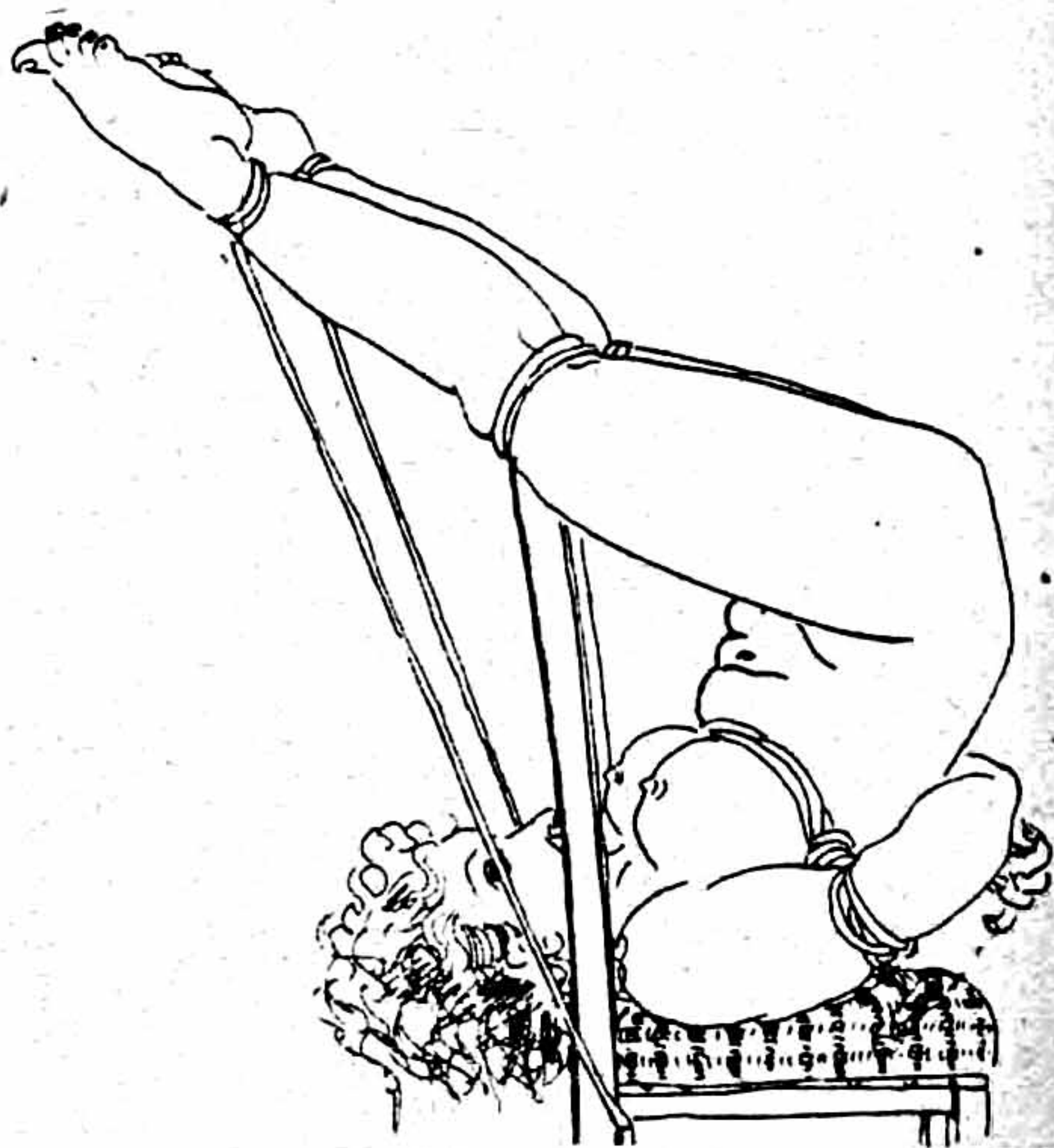
二題 その二

このポーズは敢て、椅子の助けをかりなくても出来そうです。が、少し暴れると、椅子が倒れて、ひっくりかえつてしまう所に面白味があります。

(此の繪の作者の方、編集部へ御連絡下さい)

で、一室が明るく輝いているところ、かわいい肛門からブーツと吹き出た紫煙……それらを想像しては楽しんでます。どうか素晴らしい写真をお願いします。(西宮、O・T・R・生)

○
私は四十七才になる一愛読者ですが十六才位とき、安中草三郎の小説の挿繪を見てから女の縛られた姿に異常な刺激を受ける様になりました。二十



才の時に知り合つた愛人で、私のこの要求を受け入れてくれる女が居りましたが、現在の妻を貰つてからは仲々以前のようにシツクリ行きません。当時はこんな素晴らしい遊びを知らない、他の人は馬鹿だと思つて程満足して居りましたがその女を失つてからは淋しい味気ない目を過して居りました。先日始めて奇クを書店でみつけ、小躍りする程嬉しく思い夢中で読みました
(大阪、羽世生)

私の自縛方法

青山 宗 男

(従来本通信に発表(第六号、土山徹氏、第十四号)納家生氏、第十六号、自縛生氏)されたものと共に研究され、ば非常に興味も深かろうと思います)

先ず長さ四間のと、それより少し短いのと二本の綿繩を用意します。

(一) 長い繩の中央で胸から腕にかけて三重に巻き、出来るだけ固く

三本を一束に括ります、(註

一) 細尻の二本を一緒にして、

それが通る程度の間をあけて結

び(註二) その結び目より更に

手首が二廻り出来る程のところ

に結び目をこしらえます、(註

三) 細尻を前者の間を通して引

きますと後者の結び目で止りま

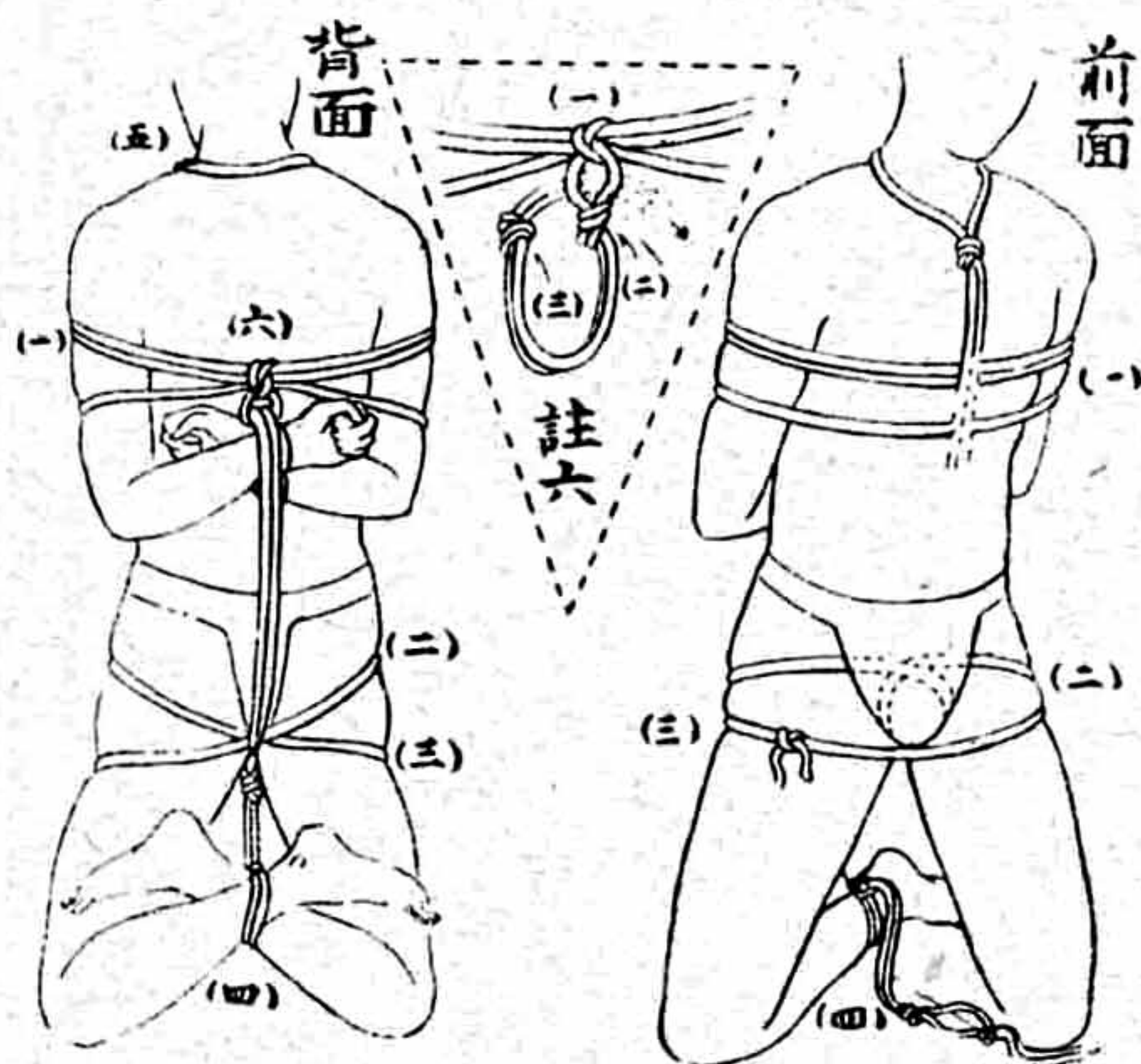
すからその儘で胸の繩をずらし

て背中中央にその結び目を持

つて来ます。

(二) 垂れている繩を背面図の様に股から前に廻し、ペニスの上で交叉させ、後の繩をくぐら

せて(背面図(二)(三))強く引締めて縛ります、これがゆるいと感じが違いますので、出来るだけきつく縛つ



た方がよいと思います。以上立つた儘の操作で、四間の繩で丁度足りります。

(三) 次は静かにアグラをかく様に座り、短い方の繩を中心より二本にして輪の方から両足首を縛り、十糎程のところまで二本一緒に結び、更に五、六糎の間をとつて結び、輪をこしらえますこの輪にペニスを入れ、ひざで立つて足首が少し上り気味の程度に吊り上げ、胸から首に廻して結びます。

(四) 胸の繩は少し上り気味になりますので、図の様に一本を押し下げて締めます。次に両手を後に廻し(註六)の輪に片方の手首を入れて後、輪をネジリ乍らして残る片手首を差し入れます。

これですつかり自縛出来た訳ですがこうして仰向に転り、跪いたり、足を動したりすると首から縦に這っている繩の為に、急に直接刺激を受け、しかも、身の動きにつれ、上下に引かれますので、充分満足を得ることが出来ます。以上が私の実行している自縛方法であります、今迄に発表されたの

と似ているところもありますが、一度皆様もこの方法を試してみてください。

読者の声 ABC

○マゾフォトの要望、○サジスチックな女性の出現を期待する。○数久氏の口繪、並に插繪を増してほしい。紐を余り使わない責め方に共感、○読者案内欄開設についての賛同、○臨時増刊号企画についての希望、○陰惨なものを排撃して明朗なものへ、○外国の資料紹介については毎月続けるよう、○告白と創作の区別をはっきりすること

○分譲写真は毎月新作を発表する様に

○次号予告は出来る限詳細に、○空想的所産による自慰的作品は好かぬ、○文獻的に価値あるものや、研究的なもののは自分の好み以外でも読む、○余り真面目過ぎる編集に偏しないこと、○繪物語に対しての注文、○目次裏の縛り方研究は好きだ、○KK通信は本誌の中間に出すようにすること。

等々

短 信 往 来

○二月上旬、東京より天洞盛英氏来阪
マゾヒスチックなフォト、特に乗馬服

乗馬靴を着した女性による、マゾ男性
への加虐のポーズを氏の指導によつて
撮映、三十数枚の貴重なネガを得た
○モデルを志願した某マゾ氏曰く、今
迄にこんな楽しい思いを経験したこと
はなかつたと、加虐側をかつて出た女
性、しみじみと語つて曰く、こんなに
大の男を自由に苛められるなんて、面
白くつてならないワ、いつでもモデル
になりたい。と、

○このフォトは、今後の誌上に順次紹
介されることでしょうか、その道の大家
天洞氏の指導だけに、間然するところ
なし、とは部員一同の批評。

○縛られることが好きだ、という令嬢
伊吹雅子嬢、二十才を新に本誌のモデ
ル陣の中へ加えることが出来た。身長
五尺二寸五分、体重十四貫三百匁、堂
々たるポリウムのある肉体、最初裸に
なるのは恥しいといつていた雅子嬢も

遂に本誌のためにその豊満な姿態をカ
メラの前に現してくれる。

○ニューフェイス、伊吹雅子嬢の縛ら
れたポーズ写真は、多分五月号より誌
上を飾る筈、乞御期待。

○尚、雅子嬢は、初めて縛られたとき
の感想を一文される由。

○本誌が月一回、KK通信月一回では
物足りないから、少くとも月三回宛位
は出してほしいとの要望しきり。

○御支援御支持は嬉しいが、これは読
者から編集部への「責め」になりそう
月一回でも遅れないように出そうとい
うのは、仲々大変なんですからね。

○企画、印刷中の類似誌も、今回の
旋風で怖気ふるつて中止との事、遅
刊あたりまえのその場当り出版屋のこ
とだから、それも宜なり、か。

○合併号（事実上の体刊）、遅刊、廢
刊、これはカストリ雑誌の消えてなく
なる順序、もうすでに、その第一歩を
踏み出して、合併号を出しているところ
がある。人を呪わば、自分の足下が
危い。

○懸賞応募作品、傑作、迷作、駄作、

もろくの自信作が殺到、開巻第一頁
——女を素裸にして、さて、がんじが
らめに縛り上げる——。あゝ、こりや
勘忍してくれ、発禁物だ。そういうの
がぞくぞくと出てくる。

○読んでいて、実際、ぞくぞくするよ
読むのはいい、が頭が痛い、氷で冷や
さん事には、とは或る部員の話。

○三月号が発禁になつたからといつて
神経過敏になつてゐるんじゃないんで
すが、勇ましい読者通信が出てきます

「口繪には、腋毛や陰毛位は出しては
どうだ、あるべき所にあるのがあたり
まえじゃないか、自分はどうも、あそ
こを消してあるのが気に喰わない……
云々……」そして、そんなのに限つて

私の本名は発表しないで下さいネ、だ
○本名どころか、そんなのを口繪に発
表したら、それこそ、号外もんだ。

○四月号はどうなつた？ とうなつた
？といやはや、おやかましいお尋ね、
御安心召されよ、どうもこうもなりま
せんや、すつかり、ちゃんと出来上つ
て、皆さまのところへ、お嫁入りした
といつていますヨ。

○どこやらのみたいに、廢刊するかも
しれません。というのと違つて、御安
心下さい、本誌に関しては。若し前金
を送るのが御心配なら、書店へ御予約
下さい。売りきれてから、やんや云つ
ても、ありませんゾ。

○或る人の云う。「責めの流行は一寸
気味が悪い位です。やはり流行病の一
種でしょうか、キチガイがやけくそで
女をむやみやたらに、グルグル縛りつ
けて、……云々……」その御心配も無
用、熱し易くて冷め易い日本人の癖
何れ近い中に、縛つた女は見るのもイ
ヤだ、という事になりますから。

○戦力なき軍隊の創設、教員の思想調
査、警察の中央集権化、等々、逆コー
ズの気配濃厚、憲法なんてものがあつ
たかねエ、この日本に。

○この間迄は、戦力問題で押し問答し
てゐると思つたら、今度は一足飛びに
統帥権問題云々だ。国民の知らない間
に蝕ばれてゆく。慢性病のように。

○KK通信の「伊呂波仁補遺抄」は当
分中止する。これも戦力の一つと思わ
れたら、たまらないから。

或る富豪の告白

マゾヒスト誕生(八)

峰村佐吉

邸の中で一週間でも二週間でものんびりしてみたいと思うことがあります。

門は閉じられていて通用門を利用することにはなつていましたが、の両側は蜿蜒と白壁の築地が屋敷の廻りを取り囲んでいます。邸内には山から引いた小川が絶え間なく清流の音を立て、私達の住む離家の南にある泉水へ注ぐことも出来るのです。いつの時代からこういう形を整えたのかもしれませんが、邸内は一つの城郭のように道が曲折して一番奥の母屋に行くのにも沢山の橋を渡つて行くようになっています

「男はマゾヒストに仕上げられた女に
対して興味を持たない」と云われます
が、私の津矢子に対する最初の愛情は
憎悪に変わり、それが、興味に移行する
と共に、時の経つに従つて関心を失つ
てゆきました。こんな女一人に大の男

が、かんくになつて馬鹿らしい、欲しい者があればやつてもいい、と思うようになつたのです。そして腹いせの浮気の方が面白くなつて、暫くは本宅の方は御留守になつていました。

若し、津矢子に私の関心が残つてい
るとすれば、「俺の目を盗んで他の男
に肌を許し、しかも俺を欺していた」
という憎悪の念でした。この憎悪の念
は、眠つていた私のサデイズの心を駈
り立て駈り立て、津矢子の身体の上に
暴虐の鞭をふるつのでした。

美佐子も、私の邸へ乗り込んで来るというからには相当の決意を持つてきたのでしよう。私は彼女を入口に近い応接間に待たせたまゝで、例の難癖をつけて津矢子をベッドの脚へ後手に縛りつけてしまいました。もう此の頃の津矢子はろくに抵抗もせず易々として私の為すがまゝになつて居るのです。流石の私も、只何んという事なしに突然そういう事も出来ませんので、津矢子が私を裏切つた時の事を思い出すのです。その時の激しい怒り。それが今では私の心の中で快い疼きとなつて反

芻されるわけです。

これはなんという心理か、知りませんが、私は只単に女を縛るという事だけでは一向になんとも感じませんし又、そんな事をして見たい等と平常は思いも寄らないのですが。一度、あの当時の事を思い出した際は、どんなヒドイ事も、それが却つて自分の心に快感となつて返つてくるのです。

そんなわけで、例の通り今迄度々繰り返えした口実の下に手荒く縛り上げた上、ベッドの脚へ身動き出来ないようにしておいて、さんざん罵倒した上で、寝室の外へ出ました。その罵倒の言葉は自分の行動を正当化する云い分けであることは、自分自身でもよくわかっていましたが、又それだけに、更に手荒く扱わなければ心のおさまらない気持でした。又、女客が来て待つているという事が私の動作を乱暴にさせたのも事実です。

待ちあぐねた美佐子は、ソファアに横になつて、両手を首のところで組んで仰向いていました。私はこの女の不逞なポーズを見た途端、今、津矢子を

苛めてたかぶつて来た気持が更にむらむらと盛り上つてきて、無性に苦痛を与えたくて仕方ありませんでした。それは、なんという理由もない衝動的なものでした。然し、理由なんかは、つけようと思えば、なんとでもつけられるものです。

「よその家を訪ねて、なんという恰好で待っているのだ」

自分に身も心を捧げた女、公の席では出すのは恥しいが、人知れずこっそり獨りの部屋で楽しむ、いわく付きの骨董品のように、もう完全に手中におさめてしまった女、そう云つて近づいた私に、冗談かと思つて甘えて取り上げる美佐子の腕をとると、巧みにねじ上げて両手をうしろへまわすと、両方の拇指を揃えてリボンで結えてしまいました。理由がなくても、女を縛り上げたいサディストになつてしまったのでしょうか。

いや、そうではありません。男は自分の所有物、愛玩物に対してはこれを如何様にも弄びたい欲望を持つているのです。玩具としての、生きた玩具

としての女は、それが、なまじつか感情というものを持つていられるだけに、これを弄ぼうという男の心を、いやが上にも喜びに駆り立てるのです。私にしても、津矢子や美佐子が、若し、感情を持たない動物であるとしたらこの様な興味を持たなかつた筈です。

美佐子が私のする事が冗談でないと覺つた時、私は初めて自分のサジストとしての心がさわぐのを自覺しました。

後で両方の拇指を括られて、美佐子が寢室へ押し入れられた時、先づ目にしたのは、ベッドの脚に後手に縛られた津矢子の姿でした。一瞬、二人の女性の視線は空中で激しく火花を散らし次の瞬間、私に対しての冷たい詰問の目差しと変りました。

無言のひととき、私は心の中で快哉



ないが、俺の復讐はこの様な惨忍極まりない形でお前に報いてきておるのだ。どうだ、よくわかつたか——諦めたように観念した津矢子は、じつとうつむいていました。

私は不逞くされたように突立つている美佐子の左腕を邪慥に掴むとそのまゝ、ベッドの上へ押し倒してしまいました。両手首が背中の下になつて、セーターを着けた胸の肉づきが盛り上がるように、むくくと震えました。

「痛い、痛い、何にするのよおう」

派手で陽気な美佐子も、私の真意がわからないだけに、顔をしかめて他人行儀な悲鳴を上げるだけでした。私はその若いちきれそうな女体を眺めながら、ほくそ笑んでいました。私の心の中の叫びは更に続きます。私に援助を求めた美佐子よ。お前は

を叫んでいました。妻である津矢子よ。お前は夫たる私を裏切つた為、今やその目の前で夫が他の仇し女と戯れる事を見せつけられねばならないのだ。さあ、見る、お前は、この俺を踏みつけ、うまく胡麻化したつもりか知ら

最初は私の買つてやる、私にしてはさ
ゝやかな散財にさえ、隨喜の涙を流し
て喜んだではないか、そして、たまさ
かの逢瀬にさえ、あらゆる媚態を示し

て私の意に迎えようとしていたではな
いか、俺はお前を、只、妻である津矢
子に対する復讐の手段、そうだ、単な
る道具として傭つてきた筈だ、それに
最近のお前は何んという事だ、一軒家
を持たして欲しいというような大それ
た欲望を持ち初めたじやないか、

この前、俺が「一度ボクの家へ来て
みないか」と云つて誘つた底には、こ
んな根柢があつたのを知らないのか。

俺には、ちゃんと、こゝにベッドの
脚に縛りつけてある津矢子という女房
があるのだ。尤も、過去に於て、俺に
かくれて不貞をはたらいた女ではある
が、然し、今では心身共にこの俺に心
伏している筈だ。心の中迄は、俺には
わからないが、どんなに苛めたつて逃
げて行かないことだけは確実なのだ。
いうなれば、マゾヒストが一人誕生し
た事になるのだよ。どうだ、面白いだ
ろう。俺は、いよく、これから、今

迄、俺の道具として飼ひ殺していたお
前を、その最初の目的通り利用してや
らうと思うのだ。

それによつて、お前や、津矢子の心
がどの様に傷つけられようと、現在の
俺には何の心の動揺もない、どころか
お前達を傷ける事が大きければ大きい
だけ、俺の心は喜びを感じるだろう。

そうだ。津矢子がマゾヒストとして
知らず知らずの中に育成されたように
俺の心の中にも、サジストとしての加
虐心が芽生えてきたようだ。

俺は、はじめ、美佐子、お前をサジ
ストとして訓練して、津矢子を苛めさ
せたら面白いだろうと思つたこともあ
つた。しかし、女は、日本の女は、あ
まりにもマゾヒストとして育て易く出
来過ぎている。お前が若し、正妻から
この俺を奪い取つた等と自惚れたら、
大きな間違いだぞ、俺はやはり今でも
津矢子を愛していて、お前は、単なる
なぐさみ物にしか過ぎないのだ。
私の心の中の叫びは、快く心の悪魔
を満足させていました。

(完)

★ 「股間縛り」 について

T 生

読者からの、口繪に対する要望の中
で、一、ズロースとか腰巻をつけさせ
るな。二、もつと正面を向かせろ。三
女性の羞恥心を極度に表わすような
ポーズをとらせろ。等々、中々活潑な
ものが多いのですが、別項、三月号の
発禁容疑の箇所をあらんにすれば、お
わかりのように、「股間縛り」がお嫌
いらしい。先ず御手元に三月号をお持
ちの方は口繪の中で「股間縛り」と「
股間の感覚を刺戟する縛り方」をあら
ん下さい。写真の方は、勿論、正面か

らも横面からも撮影してありますが、
公開誌という事で大変、遠慮して背面
のものを掲載、これがいけない。
繪の方で、左側頁の二葉は、ズロー
スやコンビネーションを穿いているか
ら、まあ大目に見てやるが、右側頁は
何にも穿いていない、これが怪しから
ん。というのである。

それと、岡田咲子さんの「謎の女と
私」の文中にも股間縛りについての描
写が忌避されているところを見ると、
「股間縛り」受難という事になる。

○御見舞○
奇譚クラブ三月号が、当局の忌避に
觸れた、と聞きました。何と云つて良
いやら……編集部のお苦勞御察し申上
げます。私は通読して、何処が？と
疑わざるを得ませんが。私の好みから
云つて、幻想の世界へ入る門戸を開き
読む者をして各自の桃源境を造り上げ
しめる……つまり露骨なキワドイ描写
があれば、却つて邪魔だと云い度い
です。上品な、含蓄のあるもの。云い
易くして仲々難しいことでしょうが、
そういったもの渴望します。私にとつ
て奇クは、もはや手離し難いもの、一
つになつて居ります。この機会に編集
部諸先生方の一層の御研究によつて、
益々上品に吾々愛読者を満足させて戴
きます様、御見舞を兼ね、御願ひ申上
げます。
(神戸、愛読者)



風流カメラ談義

塚 本 鉄 三

「お前は女の縛られている写真を今迄に何百枚となく撮っているだろう、それに読者の中で変った希望の者もあるだろう、それを一つ書いてみたらどうだい」とよく云われるのです。御言葉のように、いろいろ変った内輪話というものがあります。又、発表して面白くないア、と思うような話題もあります。然し、皆、奇譚クラブやKK通信を読むであろう人に関係した事柄です。で、よし假名にしたつて、「おや、俺の事をネタにしやがつた、けしからん奴だ」とか「あら、あたしのあの時の事を書いてるワ、いやだワ」というような事になる公算が極めて大なので、度々の懲罰ながら筆をとらなかつたのですが、今回、どうしても書け書け、と膝詰談判なので、やむなく拙い筆をとる事になった次第です。

「私は縛られる事に大変興味を持つてゐる恥しい性質の女です。若し編集部の方の中で、私を縛つて下さる方がございましたら、大変あつかましいお願いでございますが、私の希望を入れて下さいますでしょうか、読者の方々で女を縛りたいという通信が沢山ありますが私はなんだか怖いのです。編集部の先生方だったら、私、安心出来ると思つて特に恥を忍んでお願い申し上げたわけでございます。何卒私の厚かましい願いをお聞きとゞけ下さいませ。かしこ」

桃色の小型の封筒に水茎の跡も美しい此の様な便りが編集部へ舞い込んだとしたら、どうでしょう。それでは、とばかり、オットリ刀いやオットリカメラでという希望者が何人も出てくるに相違ありません。そこは誌上へ名前を出している役徳で、編集部気付、塚本鉄三様という私名宛の若い女性の便りも時々あります。然し、現実はその夢のように参りません。私の手にした女名前の手紙は一寸金釘流に近い、小学生の作文を思わせるものだつたのです。正直なところ私も毎日忙しいので、三月ばかりは返事も出さずに放つておいたのですが六月の末、その人の住所の市迄複写用の原稿を貰いに行く用が出来たので寄つてみようかな、という気が起きたのです。用件をすませて、駅前の交番で地図を見せて貰つて所番地の所を尋ねてみましたが、工場の壁が続いているばかりで一向にそういう名前の家はありません。その中、小雨がぼろついて来ましたので断念して帰つて来ました。

こんな事があつて、更に三月ばかり経つて再び彼女から私宛に手紙が来たのです。住所はやはり前と同じところ。そして是非返事がほしいとのことなのです。私は少々憤懣を混えて早速返事を書きました。折返し八月十五日、H駅で待つてゐるという簡単な便りがきました。目印は右手のハンカチというのです。私のその一方的な手紙に苦笑しながら、若し暇があつたら行つてみようかなという軽い気持ちでいました。ところ、十三日の夜になつて突然「ヤスミカワツタ十四ヒマツ」という電報が舞い込んだのです。然し十四日は私は他に離せない用がありましたので、とうとう行けませんでした。雑用に追われて手紙を出すことも出来ませんでした。

一週間程して来た手紙では、駅前で二時間程待つていた時のことをこまごまと書いて、次の日曜日には是非逢つてくれという内容なのです。その日は丁度暇で映画でも見ようかと思つていたので、約束の時間に行つてみましたところ、二十才前後の背のすらりとしたワンピースの女が近づいて来ました。先方もカメラマンという職業タイプからすぐわかつたらしいのですが、私は彼女の第一印象でいさゝか失望してしまいました。手紙の文面にあるような積極的な文章から想像した近代的な女性という感じがなかつたからです。

【編集部便り】

○三月号は口繪、本文共に定価据置のまゝ増頁、好評を得ましたので、引続いて四月号は同じ頁建にて完成、これも力作揃い、きつとお気に召すこと存じます。

○毎号誌上を飾る本誌獨特の倒錯の告白と手記、読者諸氏の絶賛を博しておりますが、今回「懸賞告白」の募集と共に優秀なる作品が集つて参りましたので、今後は——告白と手記——創作小説の区別をはつきりして、異色ある誌上を更に清新なものに盛り上げてゆきたいと考えます。

○三月号から口繪陣に初登場しました数久操作「股間の感覚を刺激する縛り方」は少い紐を最も有効に利用するという筆者の試みた第一回作品でありましたが、不幸、忌避を受けましたので四月号からはペンネームを改め、写真版による「轢殺」——鉄路に散る「輪の花」——を発表、従前とはころりと変つたアブノーマル画を御覧にいれました。(四月号口繪参照)

○五月号には、引続いて「通り魔」——たわむれに女ひとりゆくまじ——の絢爛たる口繪三頁、それに「黒髪」と題した紐や紐を用いぬ緊縛八態を掲載の予定。

○創刊七周年記念、懸賞原稿の経過の一部(二月三十一日迄の分)は四月号誌上に発表、その後二月十五日の締切日迄には更に力作が殺到しました。入選作、佳作の作品発表は五月号誌上の予定。

○「懸賞告白」の佳作「龍も五月号誌上に作品を掲載します。半公刑(篠原咲恵)MSブレイ(中谷冷一)」

○松井籟子氏の自伝的小説「私の求めた男」は、五月号、六月号、七月号のあと三回にて完結、以後はフィクションによる読切物を掲載の予定。

○私は特に実際の生活に於いて、アブノーマルな事を体験してきていないので、忠実に書こうとすれば読者が退屈されるだろうし、面白く書こうとすればウソになるので——とは松井籟子さんの偽らざる話。

○鬼山絢策氏の「痴迷」も「らぶ・す

れいぶ」の様に一年も続かないそうです。すから、懸賞入選作品を掲載の傍、新人による素晴らしいアブノーマル小説を近い中に誌上でお目にかける筈です。

○二俣志津子さんの「悪の部屋」は六月号にて完結の予定。これは最初七月号迄の予定の所、特に一回早い目に打ちつて頂いたもの。志津子さんの獨身時代の作品と比較して、大分アキが強くなつたとの評あり、結婚生活に失敗されて初めて、自分がサジズムではないかと気づかれた由、サジストとしての立場からの作品を期待するや大。

○乗杉貴代子さんの「ダイヤモンド夫人」の第二稿、サド女の人妻期は今迄家庭の御用で執筆出来なかつたところ、最近やつと寸暇を得て作成、送付されましたので、五月号に掲載予定。

○瀬川泰子さんから、女腹切譚稀書「婚姻之儀」をお預りしています。これは大部のものでもありますので、機会を見て誌上を飾りたいと思います。

○創作、告白並に読者提供の資料の中に、まことに貴重なものがありますが公開出来ない部分を含んでいるのが多くて残念です。特に江戸時代の縛り繪等、その殆どが「強姦場面」を描写しているため、涙をのんでみすみす口繪の企画から割愛せざるを得ません。

○羽村京子さんから寄せられた、図解入りのA、美女肉料理(シリーズもの)①から⑨までB、妊婦の腹剖き。C、風船玉、D、蛙の実験、E、娘の串焼き、F、お刺身の切り取り喰い等々、本当に素晴らしいアイデアなんです。そのまゝの再現はとても許されないだろうし、若し假りに手を加えて書き直したとしたら、価値は半減以下になつてしまうだろう。というので、まことに残念至極。

KK通信
第18号

昭和廿九年三月一日発行 (毎月一回一日発行)
 発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
 発行所 大阪府堺区内菅原通四ノ三〇 曙書房
 定価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)